Ⅳ 指導医養成

➢ 熊本大学総合診療指導医養成プログラム

■ プログラムの概要

このプログラムは、熊本大学が提供する独自の指導医養成プログラムになります。大学という教育・研究機関が提供するプログラムである特色を活かして、個別のニーズに合わせて総合診療・家庭医療の臨床経験だけでなくアカデミックなキャリアも積むことができることが特徴です。内容は専門医を取得してから最初の専門医更新までの5年間の教育に特化しており、主に卒後5年目から卒後12年目の若手医師を対象にしたプログラムです。更には、医学生から専攻医までの様々な世代への教育の経験ができ、連携機関も県内多数に存在するため、多彩な診療能力をニーズに応じて学ぶことができます。

また、指導医の資格を取得後の様々なキャリアに即し、特にSpecial Interestを深められるように自由選択性の研修を2年ほど取り入れています。Special Interestの領域については、各人の興味のある分野をさらに伸ばせるよう熊本県内の医療機関で研修が開始できるように熊本大学が全面的にバックアップしていきます。

■ プログラムの対象者

1. 専門医機構における総合診療研修の指導医条件に該当する、または平成31年度から該当となる予定の方
2. 卒後5年目～卒後12年目の方

■ 研修期間（5年間）

1. 指導医養成基盤研修（3年ほど）
   - 総合診療研修施設（病院総合医・家庭医）での指導医研修
   - 1年程度の大学教員（医員待遇）研修
2. 自由選択制研修（2年ほど）
   - 個別のニーズに合わせて選択式の研修
   - Special Interest研修
     例）各種専門研修、開業・開業準備、留学等
     各専門研修には、例えば、救急や緩和医療、在宅医療、などを準備しています。

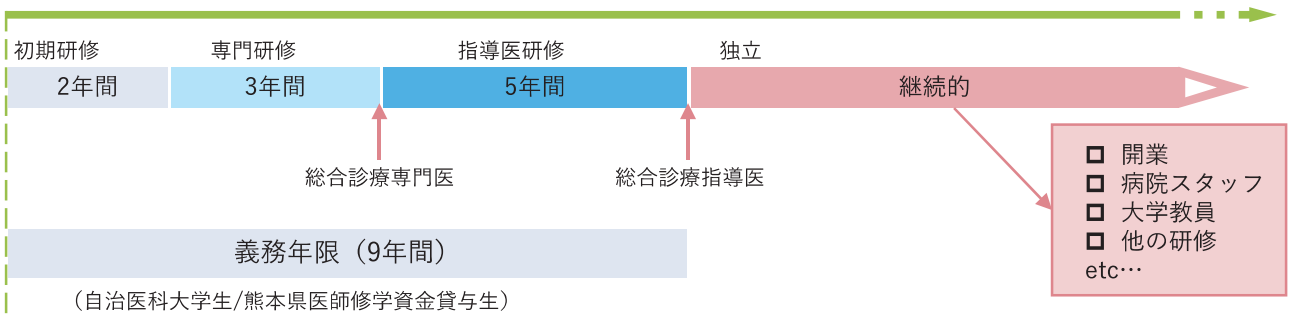
■ 一般目標

臨床能力	教育能力
• 理論の実践と深化 • 包括的診療能力の向上 • ニーズに応じた経験	• 教育理論の実践 • カリキュラムの作成
管理・運営	**研究**
• 診療科の管理・運営 • 専攻医研修プログラムの管理・運営	• 研究プロトコルの立案 • 研究論文執筆

■ 研修後のキャリアについて

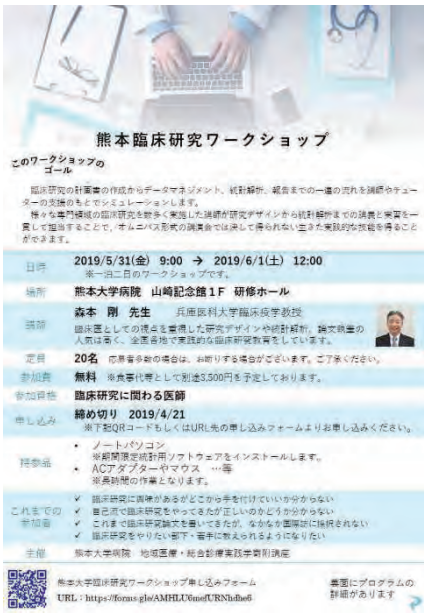
指導医養成プログラムでは、世界水準の質の高い指導医を１つのゴールとして、総合診療の指導医習得および、家庭医・病院総合医としてのBrushUP，Special Interestの選択（専門医機構の今後の動向に合わせ検討）など、有意義な経験を積んでいただければと思っています。もちろん、指導医になることがゴールではなく、指導医習得後も更なるキャリア形成の機会を提供したく思っています。具体的には、指導医として地域医療従事、国内外の留学、大学院への進学、大学教員、開業（新規・継承）などがあると考えています。

また、このプログラムは、県の医師就学金貸与制度や自治医大の卒後研修など、9年間の義務年限がある方々にとっても義務の研修を実施しながら、キャリア形成が可能で、義務終了後の次のキャリアにも結びつけることができる研修であるのも特徴です。



講演会

主催　熊本臨床研究ワークショップ
2019年５月31日金曜～6月1日土曜
兵庫医科大学臨床疫学　教授　森本　剛　先生



プログラムスケジュール

2019/5/31（金）			
時間	形式	内容	所要時間
8:10　8:40	－	受付	0:30
8:40　10:00	－	開会式・オリエンテーション	0:20
10:00　10:40	講義Ⅰ	臨床研究デザイン	0:40
10:40　11:50	グループワークⅠ	臨床研究計画 ※休憩含む	1:10
11:50　12:10	ハンズオンⅠ	統計解析ソフト導入	0:20
12:10　13:10	－	昼食	1:00
13:10　13:40	講義Ⅱ	統計解析の原則・記述統計	0:30
13:40　14:10	ハンズオンⅡ	記述統計実習	0:30
14:10　14:40	講義Ⅲ	単変量解析の構造	0:30
14:40　15:10	ハンズオンⅢ	単変量解析実習	0:30
15:10　15:30	－	休憩	0:20
15:30　18:30	グループワークⅡ	研究計画書作成	3:00
18:30　20:30	－	情報交換会・夕食	2:00
2019/6/1（土）			
時間	形式	内容	所要時間
9:00　9:30	講義Ⅳ	統計解析レビュー	0:30
9:30　10:15	グループワークⅢ	データ解析実習・図表作成	0:45
10:15　10:30	－	休憩	0:15
10:30　11:45	発表と討論	研究計画書・解析結果報告 各グループ15分発表 各発表についてのディスカッション 10分	1:15
11:45　12:00	プレナリー	ラップアップ・閉会式・受講証授与	0:15

地域に埋もれている重要な情報から臨床研究を介してエビデンスを構築することで、地域医療に従事しながらキャリア形成に繋げ、さらには医師就学資金貸与医師や自治医科大卒医師の県内定着を促すため、5月31日（金）～6月1日（土）に17人の参加者を得て、左記のとおり熊本大学病院山崎記念館で熊本臨床研究ワークショップを開催しました。

主催　第16回地域医療・総合診療グランドラウンド
「ニュージーランド臨床留学を通して見えたもの～ニュージーランドのGPとの関わり～」
2019年9月12日木曜　18:00～19:00

元オークランドシティ病院
心臓胸部外科　臨床フェロー
月岡　祐介　先生

第16回地域医療・総合診療グランドラウンドのテーマは、「ニュージーランド臨床留学を通して見えたもの--ニュージーランドのGPとの関り--」です。

2019年9月12日（木）18時～　熊本大学病院の山崎記念館にて開催いたしました。

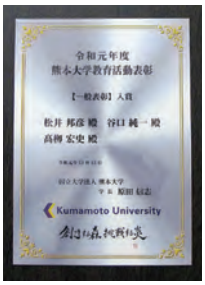
元オークランドシティ病院　心臓胸部外科　臨床フェローの月岡祐介先生に、ニュージーランドでのGP（General Practitioner）の役割や必要性、海外で医師として働くために必要なことなどをご講演いただきました。

また今回は初の試みで、セミナーの様子をTV会議システムを使って、公立玉名中央病院、天草地域医療センター、阿蘇医療センターへ中継いたしました。質疑応答では各施設から質問をいただき、活発な意見交換が行われました。

その他

表彰

松井教授、谷口准教授、髙栁助教が、熊本大学医学部医学科における特別臨床実習（クリニカル・クラークシップ）での地域医療の学修促進と学修成果獲得へ多大な貢献をしたということで、令和元年度熊本大学教育活動において学長より表彰されました。



4 教育拠点

玉名教育拠点

1.活動概要

玉名教育拠点は２０１５年４月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。２名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、現在、指導医２名、後期研修の専攻医４名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供という目標が実現されつつあります。

2019年初期臨床研修プログラム研修医（基幹型１年次：3名、2年次：3名、協力型は合計8名のは特別臨場実習（クリニカル・クラークシップ）の「総合診療科」の受け入れを行なっております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療にとり組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行なっています。

今後、地域医療に貢献するため、地域での総合診療科の認知度、研修の場としての教育拠点の認知度をさらに上げ、地域での卒前、卒後の医学教育を継続し、充実させていかねばならないと考えています。

右の活動実績のごとく、院内外のレクチャー、カンファレンスも整備が進んでおり、玉名ならではの「学ぶ機会」、特に地域医療職の皆さんに限らず、地域住民の皆様との交流を通した研修の機会もさらに増えています。より充実した教育環境づくりを進めて行きたいと思います。

初期研修・専攻医の活動は医療のネットワークと地域住民のネットワークをつなぐ役割を果たしつつあり、今後、地域づくり、地域医療研修に新しい方策をもたらすことが期待されます。

2.年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	13	レジデントデイ
5	17-18	JPCA学会　参加
	24	有明緩和ネットワーク研究会
6	14	玉名在宅ネットワーク会議
7	1	玉名救急医療研究会
8	7	有明緩和ネットワーク研究会
	9	講演会「心不全緩和のエッセンス」
	16	講演会「お・と・な の臨床倫理」
	19	有明感染症移送訓練
	21-22	有明消防　救急趣味レーション研修
	27	公立玉名中央病院　CPC
9	6	玉名塾　Dr. Ramar 「Sepsis～ Management Update 2019」
	28	有明地区研修医合同カンファレンス
10	7	玉名救急医療研究会
	13	E-レジナビ　参加
11	15	有明緩和ネットワーク研究会
1	6	玉名救急医療研究会
	31	これからの玉名の地域医療を考える会
2	23	横島町いちごマラソン救護
	23-28	基幹型研修医 タイ 研修(中止)
3	15	玉名薬剤師会　市民公開講座 参加
	19	初期臨床研修　修了式

玉名救急医療研究会

これからの玉名地域医療をみんなで考える会

教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1ターム3週間の特別臨床実習（総合診療科 クリニカル・クラークシップ）を玉名教育拠点で受け入れています。
本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエスチョンを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとしています。

第3週に学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としました。その結果、3週間を通して患者の診療を経験すると同時に、論文検索を通して疾患についての学習を深めることができ、充実した実習であったとの学生からの評価を得ることができました。

この学習手法を実行する為には、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。来る2020年度も、更に多くの医学生の参加するよう地域での医学教育の質の向上に努めたいと思います。

朝回診風景～屋根瓦式指導体制

リエゾンカンファレンス

玉名教育拠点における週間スケジュール

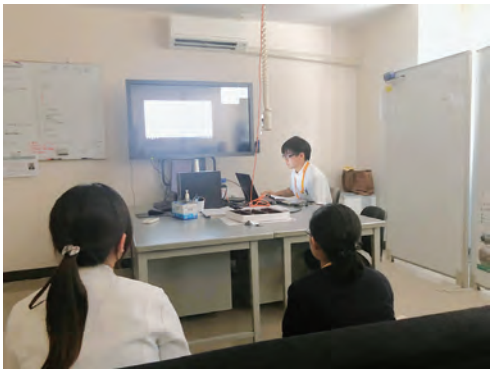
1-2週

	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー		
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー		プレゼン研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療（安成）or 緩和ケア回診（不定期）or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修			皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週

	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー		
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー		プレゼン研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療（安成）or 緩和ケア回診（不定期）or 病棟研修	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ		病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修		TMEC	皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

プライマリケアレクチャー	熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー
モーニングレクチャー	臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー
リエゾンカンファ	総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、臨長調整を多職種で検討するカンファレンス
TMEC	クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



TMEC

◆ 初期臨床研修（総合診療科研修）

2019年4月時点で、公立玉名中央病院は、基幹型研修プログラムに３名の研修医がマッチし、基幹型2年次3名と熊本大学病院のプログラムの協力医療施設として6名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として2名、計14名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れまいた。玉名教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

課題としては、初期臨床研修医の期間は、月ごとの成長が著しく、研修時期に応じて研修医の臨床能力に大きな差が生じ、担当患者数のみならず、患者の重症度や疾患の種類で、研修負担の調整が困難であること、指導医師の業務の負担が大きくなってしまっていることが挙げられます。

午後回診風景
医学生、初期研修医、専攻医
総合診療スタッフ

新患カンファレンス

朝の研修医プレゼン研修

◆ 総合診療専門医（専攻医）研修

玉名教育拠点および公立玉名中央病院では熊本大学病院　総合診療専門医研修プログラムの「総合診療Ⅱ」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2019年度は３名の２年次の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています

◆ 講演会・レクチャー

玉名拠点では様々な職種が参加するバライティー富む勉強の機会が設けられています。

心不全緩和のエッセンス

玉名塾：Dr.Ramar レクチャー

お・と・な の臨床倫理

◆ モーニングレクチャー

日程	担当：講義内容	日程	担当：講義内容
4月2日	総合診療科：円滑なコミュニケーション	9月12日	腎臓内科：腎不全、急性腎障害
4月9日	総合診療科：コンビニ受診	9月17日	摂食嚥下障害認定看護師：摂食嚥下障害看護
4月16日	安成医院：在宅医療	9月19日	腎臓内科：輸液について
4月23日	安成医院：キク、コミュニケーション	9月24日	麻酔科：麻酔が原因の心停止
4月30日	診療情報管理室：診療記録	10月8日	皮膚科：火傷
5月7日	感染管理認定看護師：感染管理	10月15日	皮膚科：中毒疹
5月14日	診療情報管理室：DPC	10月29日	泌尿器科：導尿・尿道カテーテルの手技
5月21日	救急看護認定看護師：当院の救急医療	11月5日	泌尿器科：救急外来で泌尿器科疾患らしき人が来たら…
5月28日	医療安全室：医療安全管理	11月13日	消化器内科：H. pylori除菌治療
6月4日	MSW：医療費について	11月20日	消化器内科：急性胆管炎・急性胆嚢炎
6月11日	MSW：地域の連携先	11月26日	小児科：小児救急・CPAへの対応
6月18日	理学療法：リハビリテーションと理学療法	12月3日	小児科：熱性痙攣の対応
6月25日	理学療法：言語聴覚士の仕事	12月10日	整形外科：骨折一般
7月2日	呼吸器内科：肺がんの疫学	12月17日	整形外科：ギプスの巻き方
7月9日	呼吸器内科：人工呼吸の目標	12月24日	病理診断科：胃印環細胞様変化１
7月16日	糖尿内分泌科：生活習慣病の治療	1月7日	病理診断科：胃印環細胞様変化２
7月23日	糖尿内分泌科：ICUにおける血糖管理、内分泌疾患のエマージェンシー	1月14日	血液内科：貧血と血小板減少
7月30日	糖尿病認定看護師：糖尿病看護について	1月26日	放射線科：急性腹症の画像
8月6日	循環器内科：AMI治療、心電図１	2月4日	放射線科：胸部単純写真の読影
8月13日	循環器内科：AMI治療、心電図2	2月18日	緩和ケア認定看護師：緩和ケア看護の現状
8月21日	健診センター：健診センターの紹介	2月25日	がん化学療法看護認定看護師：がん化学療法看護の現状
8月27日	健診センター：行動変容を目指した保健指導	3月3日	薬剤部：薬剤部の業務紹介
9月4日	外科：胸部外傷	3月10日	薬剤部：薬剤師と医師との協働・連携
9月5日	腎臓内科：血液ガス・電解質異常	3月17日	認知症看護認定看護師：認知症看護の現状
9月11日	外科：腹部外傷		

モーニングレクチャーとは…
＊各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。
＊指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。

診療

公立玉名中央病院にて、総合診療科での外来および病棟診療を行なってます。また、同院の他診療科からの相談や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、玉名教育拠点に常駐する教員２名、スタッフ医師（家庭医療専門医）の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

公立玉名中央病院　総合診療科

月	火	水	木	金
中村	武末	武末	松井	中村
小山	小山	中村	（小山）	小山
	田宮	田宮	田宮	

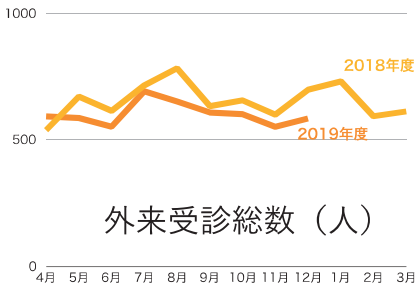
年間診療報告

玉名教育拠点開設から５年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、2017年度から水曜日を除き、連日、日勤帯の救急外来も担っています。

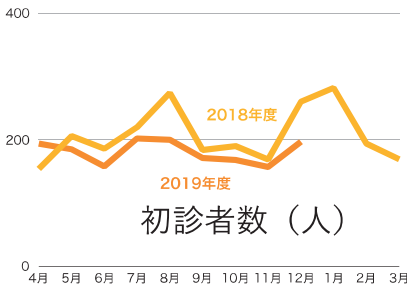
今年度は総合診療科の専攻医が減少したため、診療の中心は新たに加わった2名の家庭医療専門医のスタッフとなっています。彼らへの負担は極めて大きいものとなっておりますが、彼らの活躍により下の図が示すごとく、総合診療科への受診総数、初診者数および入院担当患者数は気候や感染症の流行による増減は見られるものの、今年度も同様のレベルを維持できています。何より彼らの真摯な態度は周辺地域への総合診療科の存在を印象付けるとともに、当院に実習や研修に訪れた学生、研修医及び専攻医の身近なロールモデルとなっています。

救急診療においては2017年より中心を担うようになった救急外来での受け入れ救急車台数は増加し、特筆すべきは不応需率が明らかに低下していることです。救急の現場で「断らない医療」が実践されつつあります。救急医療の充実は地域に信頼される医療機関になるためには必須です。総合診療科が公立玉名中央病院の救急体制を支えるのは最終ゴールではなく、今後、病院をあげての救急体制構築が目指すべきものだと考えます。

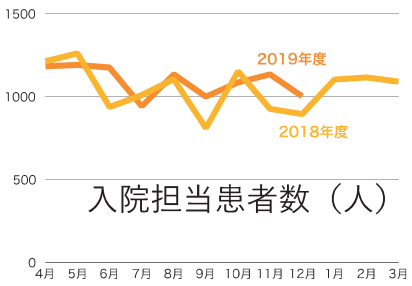
このように玉名中央病院での診療において総合診療科の役割は拡大しています。



外来受診総数（人）



初診者数（人）



入院担当患者数（人）

天草教育拠点

1.活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の２番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2019年度は２名の常駐寄附講座教員と後期研修の専攻医1名でスタートしています。
設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに２次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。

教育に関しては、2019年度はクリニカルクラークシップの受け入れや初期研修医の受け入れがシステム上できておらず、質、量ともにまだまだの部分があります。地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを、行ってきました。

今後、天草地域医療センター総合診療科に対して、特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医としての役割だと思います。今後も地域医療機関や院内のニーズに応えつつ、しかしそれだけではなく、もっと広い地域のニーズを抽出しながら、天草地域の医療、教育の発展のため、ただの病院総合医にとどまらない貢献を、組織としてひとつひとつ実践していきたいと考えています。

2.年間活動実績

- 毎週木曜午後　院内ポートフォリオ勉強会
- 毎月２回　合同WEBカンファレンス
- ８月22日　院内学会　発表
- 12月14日　院内学会　発表

3. 活動報告

Ⅰ 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、１ターム３週間の特別臨床実習（クリニカルクラークシップ）を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに１ターム１～２名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は１週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。多くは1週間の選択のみでしたが、1名は3週間すべて総合診療科を選択した学生がいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。特に3週間の期間があった学生は、入院から退院までの流れ、退院後の生活についての配慮すべきことなどまで、一連の流れを学ぶことができたと考えます。また、外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

今後は、より多くの学生が総合診療科での実習（総合診療分野でも、地域医療分野でも）ができるよう、大学での体制を作っていっていただけることを大いに期待しています。

◆ 早期臨床体験実習

熊本大学医学部では、早期臨床体験実習として今年から、3年生に１週間の日程で各病院での実習が行われました。天草地域医療センターにも3名の学生が実習に来ましたが、熊本大学からの移動時間の問題もあり、天草地域医療センターでの実際の実習期間は3日半でした。すべて総合診療科で担当しました。内容としては、認知症患者との雑談、外来患者へのインタビュー、リハビリテーションの参加、訪問看護の参加などを行いました。天草地域をベースに、地域の特徴を理解、把握したうえで診療を行うことの重要性を認識してもらえたと思います。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医は、今年度は１月までの時点で総合診療科の選択がなく、直接的な指導はほぼ行えておりません。今後は、初期研修医自身が総合診療科ローテートを選択できるような体制、充実した教育を行える環境を作っていくことが課題です。

地域医療研修として、１か月のみ他院から初期研修医が研修を行いました。指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

今後は、より多くの初期研修医が総合診療科をローテートできる体制を作っていただけることを大いに期待しています。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医１名が在籍しています。本人のニーズ、診療能力に合わせた診療内容を指導医が調整しながら行っています。他科と協力しながら、呼吸器内科研修、超音波研修、上部消化管内視鏡研修なども取り入れています。また、週に１回、河浦病院からもう１名、専攻医が研修に来ています。その日にあわせて、ポートフォリオ勉強会を毎週行っています。しかし、指導医の外来担当日とも重なっていることもあり、診療優先で勉強会を行えない日もありました。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

Ⅱ 診療

天草地域医療センター　総合診療科

	月	火	水	木	金
高杉	外来	救急	外来	救急	外来
鶴田	救急	外来	救急	外来	

Ⅲ 年間診療報告

今年度から天草教育拠点の開設、天草地域医療センター総合診療科が常勤になり、平日は毎日外来を行っています。地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

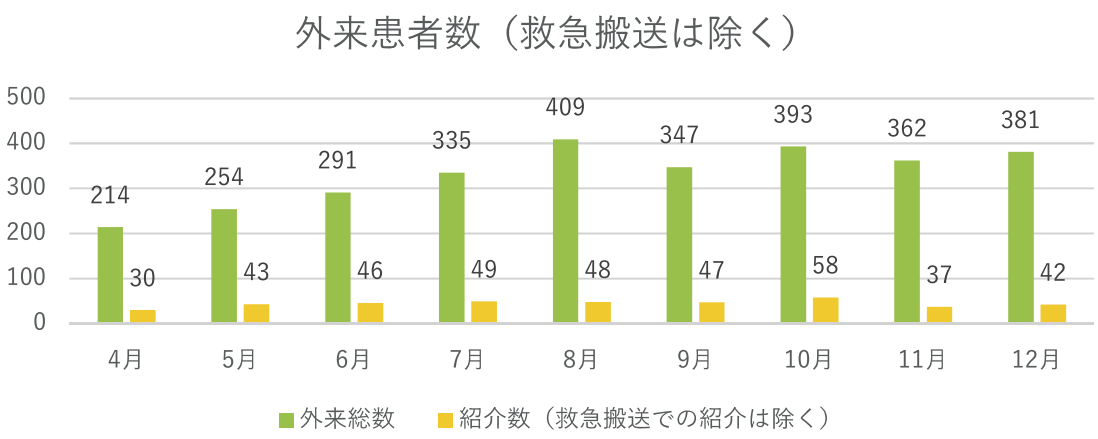
・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

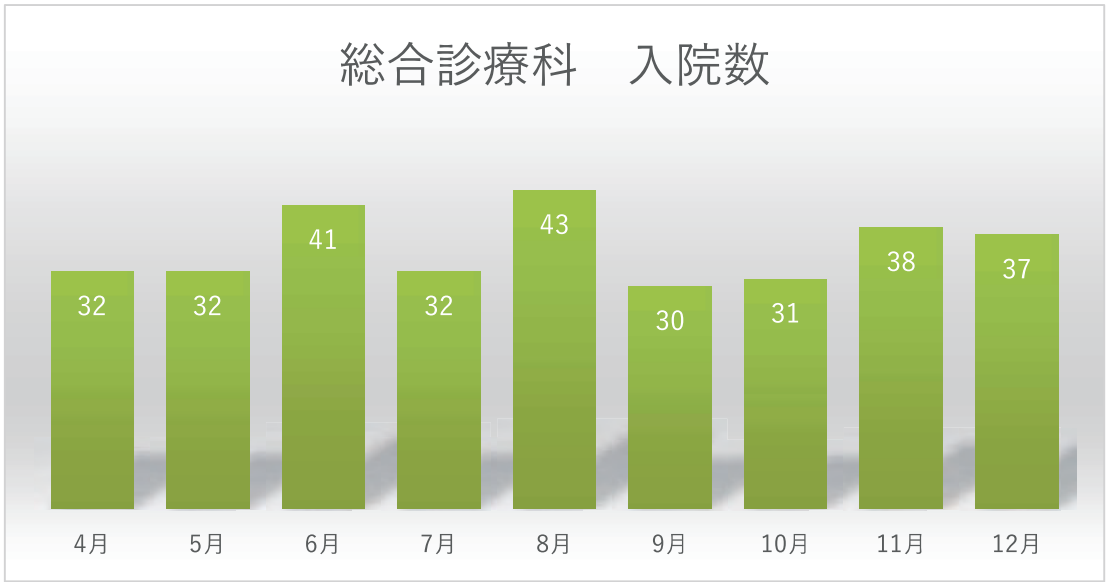
が重要な役割だと考えています。

外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患（悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細

胞癌、管内胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など）、感染症（EBV伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、椎体炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など）、膠原病関連（関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など）、運動器疾患（圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など）、ほかにも悪性貧血、ネフローゼ症候群、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

また、現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士と連携し、摂食嚥下チームの充実化を行っています。昨年度までは行われていなかった嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査での嚥下評価を行い、患者様にあった摂食嚥下のリハビリテーション計画、食支援を実践出来るように取り組んでいます。





5 熊本県医師修学資金貸与制度

1.地域医療ゼミ

Ⅰ 概要

地域枠学生等（熊本県医師修学資金貸与学生）に対し、地域医療に関する様々なテーマで毎月1回ゼミを開催しました。

熊本県知医師修学資金貸与学生は43人おり、各学年の人数は右の表のとおりです。

昨年度から開始した「インタレストグループ」を今年度も継続し、「臨床推論」「シネメデュケーション」「キャリアと制度」のテーマを設定し、学生個人が興味のあるテーマを選び、事前に取り組む内容を決めて地域医療ゼミの当日にプレゼンするという形式でゼミを開催しました。

1年生	5人
2年生	7人
3年生	6人
4年生	11人
5年生	6人
6年生	9人

Ⅱ 活動報告

0 2019年3月22日、前年度最後の地域医療ゼミが行われました。

地域医療ゼミの先輩でもあります、熊本大学病院　山村　理仁先生、公立玉名中央病院　平賀　円先生、熊本再春荘病院　堀　愛莉花先生を講師に迎え、今現在の勤務についてご講演いただきました。

その後、次年度のゼミ代表のあいさつがあり、レクリエーション、翌年度のゼミ活動グループ分けの話し合いへと進み、翌年度のゼミが楽しみとなるような地域医療ゼミとなりました。

1

2019年4月18日、本年度最初の地域医療ゼミが開催されました。
谷口先生から地域医療ゼミの説明や、新入生の自己紹介、年間スケジュールの確認などをしたのち、懇親会を行いました。

2

2019年5月14日、本年度2回目の地域医療ゼミは、2019年度キャリア支援セミナー「アンガーマネジメント応用編」への参加として行われました。（セミナーについてはP.22をご参照ください。）

3

2019年6月20日、本年度3回目の地域医療ゼミが行われました。
「キャリアと制度」をテーマに行いました。医師就学資金貸与に対する不安や疑問を洗い出すことができました。

4

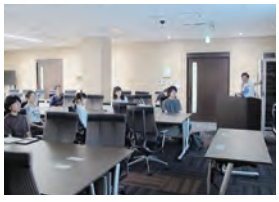
2019年7月18日、本年度4回目の地域医療ゼミが行われました。
翌月行われる夏季地域医療実習について、事務からは日程の説明を、佐土原先生からは実習の事前課題についての説明を、また、5年生からは各グループ代表から、実習の事前学習についてのスライドを用いての説明がありました。

5

2019年8月16日から17日にかけて、上球磨地域医で令和元年度夏季地域医療実習が行われました。詳しくはP.51をご覧ください。
（さらに詳細な内容は、別冊の『令和元年度夏季地域医療特別実習活動報告書』をご覧ください。）

6

2019年9月19日、本年度5回目の地域医療ゼミは、インタレストグループによる「シネメデュケーション」です。映画「レナードの朝」を鑑賞し、登場人物の心情を皆で話し合いを行いました。



7

2019年10月17日、本年度6回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「臨床推論」です。臨床推論のやり方をレクチャーし、実際に症例をもとに臨床推論を行いました。

8

2019年10月26日に熊本テルサにて、第24回熊本県国保地域医療学会が開催され、3年生 渡邊　光紗さんが「熊本大学医学部地域医療地域枠夏季地域医療特別実習」と題し発表を行いました。2年生 坂本　萌さん、冨士登　璃子さん、中村　水紀さんが参加されました。

9

2019年10月17日、本年度7回目の地域医療ゼミは、医学生・研修医をサポートするための会によるセミナー「やりたいことをあきらめない！Dr.Yukaのフィジカルアセスメントレッスン」への参加として行われました。（セミナーについてはP.22をご参照ください。）

10

2019年12月19日、本年度8回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のインタレストグループのテーマは「臨床推論」です。今回は「診断エラー」について、低学年に向けて丁寧に推論の手ほどきを学びました。

11

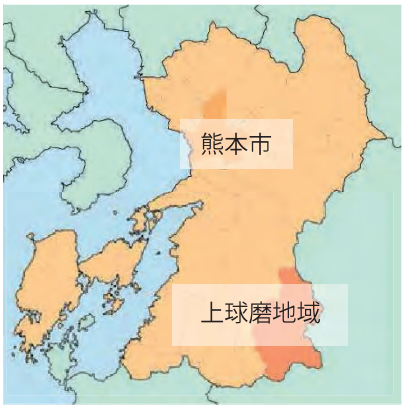
2020年1月16日、本年度9回目の地域医療ゼミは、インタレストグループによる「シネメデュケーション」を行いました。「シッコ」を鑑賞し、各国の医療費制度のについて考える機会となりました。

12

2019年2月20日、本年度10回目の地域医療ゼミが開催されました。
今回のテーマは「キャリアと制度」です。医師修学資金貸与制度について熊本県庁医療政策課の方にご説明していただき、自身のキャリアを考える良い機会となりました。

2.令和元年度夏季地域医療特別実習

Ⅰ 概要



例年、夏季地域医療特別実習は、熊本県修学資金貸与学生や自治医科大学生を対象に2泊3日で、熊本市外の病院や診療所などの医療機関で見学型実習を行っていました。平成24年度には、当講座の前身である地域医療システム学寄附講座が企画し、球磨地域全体をエリアに、今回の対象4町村と公立多良木病院含めて開催されております。近年の医学部カリキュラムの改変で、学外医療機関で実習の機会が増えてはきていますが、地域医療の視点から、医療保健分野のみならず、多方面から広く地域を俯瞰して見る視点を養う機会は少ないのが現状です。将来、熊本県内各地域で医療に従事することが定まっている学生にとって、「地域を知る」ことで、将来の自身の医療者像を考え、地域での医療に主体的に関わる動機付けにつながることが期待されます。
平成28年度の夏季地域医療特別実習より、「地域を知る」という視点を置き、医療施設の訪問だけでなく、フィールドワークとして、地域の産業、観光資源、生活の場などを、見て・聞いて・感じることができるような構成を踏襲しております。

夏季地域医療特別実習前に事前課題を提示し、地域医療ゼミや自己学習を通じて、あらかじめ地域をリサーチ、課題を抽出、地域診断の視点をもって、フィールドワークで各施設や現場を訪問、意見交換をして、最後にまとめたものを発表、共有してもらうという構成をとっております。

今回は、台風10号の接近により、日程を1泊2日に短縮し、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村の4町村で、6グループに分かれて実習を行いました。

◆ 実習参加者

- ■ 熊本県医師修学資金貸与制度利用者　熊本大学　16名
- ■ 自治医科大学医学部医学科　熊本県出身者　10名

Ⅱ 実習の目標と狙い

◆ 実習の目標

【一般目標】
①地域を知り、地域との関係性を構築する
②将来、地域に求められる医師となる

【行動目標】
①地域住民と交流する
②地域の現状を様々な視点から知る
③地域の課題の解決・改善策について発表する
学生間で交流を深める
④地域で求められる医師像について考察する

◆ 実習の狙い

【「地域を知る」実習を通して】
- ✓ 医療関係者として地域から自分たちが期待されていることを自覚する
- ✓ 医療・福祉・行政サービスの提供／利用のされかたの実際をみる
- ✓ コミュニティの中で、それらのサービスを提供する側の視点と生活者としての利用する側の視点の違いを知る
- ✓ 地域によって異なる健康課題があることを分析することにより、将来、医療者としてどのような地域でも求められる健康課題に携わるための示唆を得る
- ✓ 地域特性や課題に応じた地域包括ケア、自助、互助、共助の現場を体験する
- ✓ 他職種の役割や機能と連携、協働のなされ方を知る
- ✓ 参加者間、グループメンバー間のグループダイナミクス、リーダーシップ、マネジメントを体験する

2日間の日程

8/16(金)

AM
- 集合
- 移動
- 事前学習のまとめ

PM
- フィールドワーク
- グループワーク
- 交流会

8/17(土)

AM
- 発表
- 講話
- 移動（くま川鉄道）

PM
- 移動
- 解散

詳細は
平成30年度
夏季実習報告書
をご覧ください。

フィールドワーク

フィールドワーク　1班

槻木診療所

多良木町保健センター

フィールドワーク　2班

多良木町立多良木学園

多良木町通所介護事業所

公立多良木病院　在宅医療センター

フィールドワーク　3班

そのだ医院

特別養護老人施設　福寿荘

湯前町保健センター

ゆのまえ温泉　湯楽里

フィールドワーク　4班

社会福祉法人　御薬園

- 特別養護老人ホーム桜の里
- 居宅介護支援事業所桜の里
- グループホーム桜の里
- 地域密着型特別養護老人ホーム桜なみき

古城クリニック

水上村社会福祉協議会

フィールドワーク　5班

松の泉酒造

尾鷹林業

ふれあい福祉センター

岩井クリニック

フィールドワーク　6班

松の泉酒造

尾鷹林業

医療法人誠心会東病院

特定施設入居者生活介護そらまめ

特別養護老人ホームりゅうきんか